

令和3年度 第5回丸亀城石垣崩落対策本部会議録

1 開催日時 令和3年11月8日(月) 午前10時10分～午前10時40分

2 開催場所 4階特別会議室

3 議 事

(1) 石垣復旧専門部会での審議・報告事項

ア 文化財調査の成果について

・三の丸南面(D面)地中部の試験掘削を行ったところ算木積みの石垣が見つかった。城郭絵図や木図から評価したところ、算木積みの一部を残したまま修復が行われたと考えられ、丸亀城再築以前の当初の姿を残す石垣が見つかったと思われる。(文化財保存活用課長)

イ 三の丸西面(C面)と帯曲輪西面(H面)の解体範囲の変更(追加)について

・承認されている解体範囲以外の石で、現場の状況により安全確保のため追加解体が必要と判断し取り外した石について、次回専門部会で報告を行い、追加承認を受けることにしている。(丸亀城管理室長)

ウ 三の丸南面(D面)の解体範囲の変更(追加)について

・三の丸南面(D面)地中部の試験掘削結果から、不安定な石垣の解体に伴う追加解体ライン(案)を次回の専門部会で審議する。ポイントは栗石が充填された箇所の除去と破断している石材の解体に伴う追加解体ラインを提案する。
・三の丸南面(D面)の追加解体に伴い帯曲輪石垣解体工事が遅れる見通しとなった。今後専門部会において追加の解体範囲が承認されたら、改めて工程調整をすることになる。(丸亀城管理室長)

→早期の復旧が望まれる中で工期延伸は残念だが、文化財的な発見があり、築城の歴史を知る機会となった。新しい発見については今後も積極的に情報発信していきたい。(教育部長)

エ 新石材の調達について

・石材調査においてD判定、E判定を受けた石は原位置での再利用ができないため、新石材に交換する必要がある。破損した石材の数が多く、現場が必要とする新石材

の調達量と出荷量次第では工事の進捗に影響が及ぶことが予想されることから、工事の中で調達することとする。(丸亀城管理室長)

→新石材調達の候補地について、日本遺産を推進する立場として、日本遺産に関連する丁場も候補に入れて石垣復旧を通じた日本遺産の推進も考慮してもらいたい。(市民生活部長)

→施工業者から日本遺産に関連する丁場の調達も視野に入れているとの情報を得ている。地元業者から優先的に購入するよう仕様書に盛り込んでいる。(丸亀城管理室長)

→文化財石垣の修復のため、丸亀城の石垣に使用できる石材が採石できる丁場かどうか選定のポイントになることを理解してもらいたい。(教育部長)

(2) 広報・活用分科会からの報告

ア 丸亀城ボードゲーム「ISHIGAKI」について

・生涯学習課の令和3年度丸亀市提案型協働事業により、「さぬきファミリーゲーム倶楽部」と、産業観光課、文化財保存活用課が協働で、丸亀城を舞台にしたボードゲーム「ISHIGAKI」を制作した。地元の観光素材を活用したボードゲームは全国初のことであり、丸亀市をPRする新たなツールとして活用したい。(広報広聴課長)

イ 丸亀城石垣応援フレーム切手第2弾の作成について

・令和2年1月、日本郵便株式会社四国支社から「丸亀城～あの美しい石垣をもう一度」と題したフレーム切手が販売され好評だったことから、第2弾の作成提案を受け、12月販売開始の予定で準備を進めている。(広報広聴課長)

4 出席状況

(1) 本部構成者(第3条)

職	氏名	出欠
市長	松永恭二	○
副市長	横田拓也	○
教育長	金丸眞明	○

モーターボート 競走事業管理者	大 林 諭	○
市長公室長	山 地 幸 夫	○
総務部長	栗 山 佳 子	○
健康福祉部長	宮 本 克 之	○
市民生活部長	小 山 隆 史	○
都市整備部長	吉 本 博 之	○
産業文化部長	林 裕 司	○
ボートレース 事業局次長	福 本 泰 幸	○
教育部長	七 座 武 史	○
消 防 長	田 中 道 久	○
議会事務局長	渡 辺 研 介	○

(2) 関係職員

市長公室職員課長	徳 田 寛
市長公室秘書政策課長	窪 田 徹 也
市長公室秘書政策課副課長	谷 本 智 子
市長公室秘書政策課政策推進担当長	宇 野 大 志 郎
市長公室広聴広報課長	奥 田 孝 彦
総務部財政課長	宮 西 浩 二

(3) 事務局

教育部文化財保存活用課長	東 信 男
教育部文化財保存活用課副課長（丸亀城管理室長）	松 江 康 司
教育部文化財保存活用課丸亀城管理室総括担当長	阪 本 晃 弘
産業文化部産業観光課観光担当長	逢 坂 雅 和
産業文化部産業観光課副主任	金 子 柊 斗